

・西法寺（東天川）

十一月二日、こどもから大人まで
門信徒の皆さんと共に、
親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を
お勤め致しました。



ご門徒さんが親鸞聖人御像を寄進して下さいさり

また、ご講師、三浦明利さんの本堂での

法話コンサートもあり盛大な法要になりました。



・久宝寺（大手町）

十一月八、九日に

報恩講法要を勤修致しました。



八日には、西藤尚樹師をお招き致しまして、

「御伝鈔」の拜読がありました。

続く九日には、京都より弘山光称師を

お招き致しまして、「御絵伝」を用いた

絵解き説法がございました。

多くのご門徒さんがお参りに訪れました。



光寿無量

浄土真宗のお寺には、様々なひとが訪れます。年忌や法事などでは、ご門徒ではない、他宗の方々がお参りされることもめずらしくありません。本堂にお座りになった方が、内陣中央のご本尊を見上げ、あのみ仏は、お釈迦さまですか、阿弥陀さまですか、それとも別な仏さまですか、などと住職に尋ねられることがあります。仏教は、いわゆる一神教ではなく、多仏がましますから、そのようにお尋ねされるのはある意味では当然のことです。申すまでもなく、浄土真宗のご本尊は、阿弥陀如来です。その阿弥陀如来に帰依し、「南無阿弥陀仏」と申すところに、真宗門徒の生活の基本があります。あるいは「ナマンダブ」などと声に出すほうが、私たちに親しい信仰表現の姿かもしれません。真宗門徒は、おりあることにお念仏を称えますが、「南無阿弥陀仏」は、インドの原語に発祥する言葉ですから多くのの方々、とくに他宗の方々には意味不明の呪文のように響くかもしれません。

南無とは、「帰依します」という信仰の決意を表明する語であり、また阿弥陀仏とは、「無限のいのち」「無限のひかり」という大きな徳を具えた阿弥陀如来を讃える言葉です。したがって、浄土真宗では、口に念仏申す、つまり称名するだけでなく、み名のいわれを聞くこと、すなわち聞名することが大切な意義とされます。

宗祖親鸞聖人は、この南無阿弥陀仏の六字を、「正信偈」の冒頭に、「帰命無量寿如来南無不可思議光」と表現されました。「はかりなきいのち（無量寿）のみほとけ、はかりなきひかり（無量光）のみほとけ」である阿弥陀如来に帰依し、現前の生活の場にまで届いた、南無阿弥陀仏のみ名を讃え、そしてそのいわれを聞くところに、「正信偈」を読み、唱和する深い意味があるのです。

(二〇一四年版法語カレンダーより)

島上南組設立五十周年記念式典にむけて

行事委員会が主体となって式典の計画を立てています。

日時：二〇一五年（平成二十七年）

十一月五日（木）に決定しました。

場所：記念式典・講演会 高槻現代劇場中ホール（予約済み）

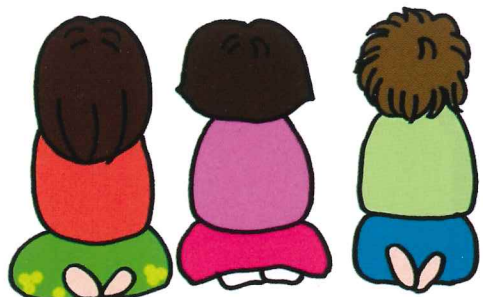
祝賀会（調整中）

テーマ：「想いは今も この地から」

式典次第：記念講演会、記念演奏会

（雅楽、コーラス）などを予定。

予算：組より30万円、会費（祝賀会）のほか協賛金で賄います。



島上南組 だより

浄土真宗本願寺派
2015年(平成27年)1月
創刊号
編集・発行
高槻市大塚町西證寺内
島上南組実践運動委員会

組報創刊にあたって

島上南組組長 尾崎貞良

皆様には慈光照護のもと新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。島上南組におきましては本年、旧島上組から三つの組（南組、北組、西組）に分かれて五十年を迎えます。この節目の年にあたり「島上南組設立五十周年記念事業委員会」を設置して記念誌の発行、行事（式典・祝賀会）、組報（広報紙）の発行の三事業を行うことになりました。

この組報で設立五十周年の記念事業の進捗状況や各寺院や教化団体の法要ならびに行事に対する取り組みなどをご紹介いたします。島上南組十七か寺の広報紙として愛読していただければ幸いです。

私たちはこの度の記念事業を通じて五十年の歴史を振り返り、先輩諸氏のご苦勞を偲びご遺徳を讃えるとともに、未来に向かって「念仏の声を子や孫に」伝えていく機縁にしなければなりません。

そのためにも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます、組報創刊のご挨拶とさせていただきます。

合掌

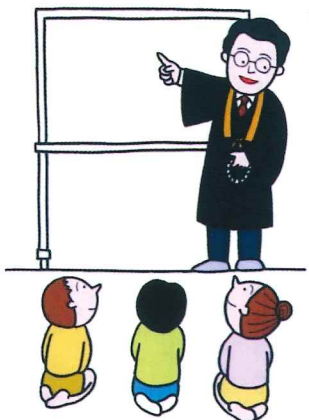
◆ 記念誌の発行

記念誌委員会が主体となって記念誌を作成しています。記念誌は予算40万円、54ページになる予定です。業者は高槻市柱本の「樹々」に決定。設立から五十年間の歴史を写真を含めて掲載します。

主な内容は

- ① 各組長時代の年表と思い出
- ② 各構成団体より
- ③ 寺院紹介
- ④ 主要な法要や行事の記録
- ⑤ 役員一覧

となるような編集方針を考えています。



◆ 仏教婦人会より

結成四十五周年記念旅行で十月三十日から一泊二日で四国へ行ってきました。

明石海峡大橋を渡って淡路島を縦断し

鳴門のうず潮を眼下に見ながら大鳴門橋を渡り、

徳島県から香川県へ。

妙好人庄松ゆかりの勝覚寺を参拝後、

こんぴら温泉で宿泊。

二日目は丸亀市にある

塩屋別院参拝のあと

法然上人ゆかりの井戸がある

正宗寺を見学し、帰りは

瀬戸大橋を渡って、

岡山県から参加者三十八名

全員無事に高槻へ

戻ってきました。



◆ 総代会より

平成十二(二〇〇〇)年に南組門徒研修会として「真友会」が発足しました。その後、平成十九(二〇〇七)年に「島上南組門徒総代会」の規約が新たに作られ、活動が活発に行われるようになりました。平成二十五(二〇一三)年の総会で「真友会」との一本化を検討した結果「真友会」を解散し、総代会の研修部門として吸収し現在に至ります。年三回の研修会、組内寺院報恩講参拝、聞法会、総代会主催報恩講法要や組と共催で新年互礼会、一日研修会の事業を行っています。



◆ 揚風会より

揚風会は若手僧侶の勉強会として

昭和五十七(一九八二)年に創設、三十年余の

歴史を持ちます。原則毎月一回、教学や声明の研鑽を続け、若手僧侶の交流の場にもなっています。主催する年一度の講演会は二

十七回を数え二〇一四年六月には東京工業大学より上田紀行氏

を、お迎えし「未来をひらく仏教の使命」のテーマで

講演していただきました。



◆ 各寺院の活動

・ 尊重寺 (大冠町)

十一月十六日、親鸞聖人七百五十回

大遠忌法要を厳修致しました。

三十六人の稚児行列が

法要に華を添え、

あらゆる世代の人たちが

本堂に集い、

記憶に残る法要になりました。

・ 西教寺 (萩之庄)

十一月二十二日、

南組仏婦正副会長様を

お迎えして

「仏教婦人会五十周年のつどい」

を開催しました。

南組の単位仏婦の中では最古の歴史をもちます。

